

幼稚園教育，生活科における子ども相互の学びをつなぐ支援の在り方  
ーオノマトペ，メタファなどの言葉から学びの姿をとらえてー

第1学年 生活科学習指導案

1. 単元名 「さらさら，ぺとぺと，すなであそぼう！」

2. 指導観

【こんな子どもだから】

子どもたちは，幼稚園，保育園で砂で遊んだ経験をほとんどの児童が持っている。あさがおのたねまきをきっかけに，休み時間も土をいじり，水をかけて楽しんでいる児童もいた。また，休み時間に，土を掘ったり，登り棒の下に草を置いて，お餅つきと言って楽しんだり，砂場で穴を掘ったり，山を作って楽しんでいる姿がある。

【こんな教材で】

砂は，五感を通して思い切り楽しむことができ，直感的，感覚的に遊びを考え出すことができる教材である。また，身近にある水や草や石なども使って遊びを作り出す楽しさがあり，夢中になって遊べる教材である。

この単元で，遊び方を工夫し，友達とよりよいかかわりがもてるようになることを目指しているが，砂遊びは，友達との関わりも生まれやすい教材である。

【こんなこどもに】

友達と関わり合いながら，遊び合わせて砂の状態を変化させて表現できる子ども

【こんな方法で】

- ① オノマトペ，メタファから学びの姿をとらえるために
  - ・活動中や交流場面の言葉，振り返りカードから記録をし，とらえた言葉から次の教師の言葉かけに生かす。
- ② 課題が連続し，豊かな表現が生まれる活動づくりのために
  - 子どもの願いに応える環境構成の工夫
    - ・願いに応じた環境を作り出せるようにするために，自分で必要と感じた空容器などの道具や水の水量調整などを考え出した児童を認めていく。
  - 豊かな表現を認め，広げる環境構成の工夫
    - ・直感的，感覚的に遊びを考え出したことや，身近にある水や草や石なども使って遊びを作り出したことに対して教師は積極的に認めていく。
    - ・考えた遊びや感じ方をオノマトペなどの言葉で表現したや，友達同士の価値付け合いを，教師が積極的に認めていく。
  - 対話を生み出すグループ構成の工夫
    - ・願いを把握し，願いの同質グループで活動し，流動的であるグループの活動を教師は見守り，子ども同士の関わり合いを見つけ，認めていく。
    - ・学校の砂遊びの終末では，遊びグループで一つのものを作る活動を行い，遊びの発展を見守っていく。

### 3. 単元の見積

- 友達と関わり合いながら、身近になるものを使って遊びを工夫したことを表現し、砂で遊びが広がることや友達と遊ぶ楽しさに気付くことができる。

### 4. 単元計画 (全13時間)

段階	学習活動と内容	教師の支援	期待できる姿・表現
であう ⑥  本時 6 / 1 3	○ 学校の砂場で遊ぼう	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 斜面での遊びなど遊びを広げるために、砂を新しく用意し、砂場の中に砂場の山を作っておく。</li> <li>○ 砂遊びの体験を積み重ねることによって、そこから次の願いを持ち、遊びたいことができるように、道具の準備や材料を集めたりできるように促す。</li> <li>○ 関わり合いの様子をとらえ、教師も言葉かけをしていき、積極的に認めていく。</li> <li>○ 毎時間の活動ごとに、振り返りカードに遊んで気づいたことや友達との活動を書くことを積み重ねることによって、オノマトペなどの言葉を使った気づき等を広げていく。</li> <li>○ ペットボトルや空き容器などの道具や水を使うなど、さらに活動を広げる場面を持つ。</li> <li>○ グループを作って、一つのものをつくるような交流場面を持つ。</li> <li>○ 活動の様子の写真にとり、振り返る場面に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ころころころんだよ</li> <li>・ざらざらしたよ</li> <li>・上はさらずな下はさずな</li> <li>・雪のシャワーをかけよう。</li> <li>・こっちはチョコレートスプレーだ</li> <li>・上は冷たい、下はぼかぼかあたたかいよ。僕は反対で、下は冷たかったよ。</li> <li>・水を使おう！ペトペトになるように固めよう。</li> <li>・こっちはどろっとしているよ。こっちの砂を使ったらいいね。</li> </ul>
さ ぐ る	○ 2年生と福浜海岸で遊ぶ計画を立てよう	○ 2年生とのグループで、福浜海岸で作りたいものを決め、道具の準備などを話し合う。	・みんなで○○みたいなものをつくろう。
ふ か め る ⑥	○ 福浜海岸で遊ぶ(4)  ○ 福浜海岸で遊んだことをまとめよう(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福浜海岸では、友達との関わりを中心に認めること言葉かけをしていく。</li> <li>○ 安全面の留意として、海の中には入らず、水くみの場面では教師がついておく。</li> <li>○ 保護者に安全ボランティアとして参加を募り、安全面の留意や認める言葉をかけていただくようお願いする。</li> <li>○ 遊んだことを絵にかいたり、文章でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・僕はこれするから、○○君これしてね。(分担)</li> <li>・一緒に○○しよう。(協力)</li> <li>・ここの砂をふるってもっと細かく上にかけてよう。</li> <li>・下の方の黒い砂と上のさらさら砂を交代で固めよう。</li> </ul>

5. 本時

平成18年6月28日(水) 運動場砂場において

6. 本時の目標

- グループの友達と協力して、遊びに合わせて砂の状態を変化させながら、遊びを工夫することができる。

7. 本時指導の考え方

子どもたちはこれまでの学校での砂遊びで、砂山や砂団子を作ったり、穴を掘ったり、砂風呂とって足に掛けたり、砂そのものの遊びを楽しんできた。遊びが発展するにつれて、ペットボトルで水をかけて砂を固めたり、流したりしてさらに砂の状態を変える子ども、型抜きをして杏仁豆腐など名前をつけて、遊びの中で黒砂や白砂を使い分ける子ども、砂団子を作って雨どいでころがすところわれて残念に思っている子どもなどの様々姿があった。子どもたちは、次はこわれない団子にしたいな、もっとかちかちの山になったらいいかなどと願いを持っている。

子どもたちは砂遊びの中で、下の方は黒い砂や赤い砂があることや上の方は白い砂があり、「白砂をかけると雪のようだね。」「下の方はあったかいよ。」「水をかけてぺたぺたにしたよ。」「かちかち山になったよ。」などと砂の性質の違いや状態を変化させて、気づいたことを自分なりの言葉で表現してきている。教師はその言葉をとらえ、「本当に雪みたいだね。よく分かるね。」と賞賛し認めてきている。

学校の砂遊びの終末にあたり、友達と何人かで一つのものを作りたいという願いから、作りたいものの計画を立てている。グループは今まで一緒に砂遊びを楽しんできたメンバーを基本に、自由な砂遊びグループを編成し直した。そのグループでグループ名を決め、砂で遊ぶ計画を立て、そのための道具の準備もしてきている。計画書を書いたグループの旗を作り、グループでの活動を楽しみにしている。

本時は、グループで一つのことを協力して作って遊ぶ時間である。そこで、本時のめあてを「グループで力を合わせて、砂で遊ぼう」とし、グループの友達と協力して、遊びに合わせて砂の状態を変化させながら、遊びを工夫することができるようにしたい。

グループ毎に砂場の中で活動場所を選ばせ、めあてを確かめたらすぐ活動に入りたい。活動の場作りとして、砂遊びの目的に合わせて活動ができるように、砂の山、川砂の小山の場を前もって作っておく。水は子どもたちで使えるように、砂場から少し離れた飼育舎付近の水道をできるようにしておく。教師の方では、雨どい、じょうご、ふるい、バケツ、堅い泥団子などの用意をしておく。活動中は道具や水などを使って、目的に合わせて砂をどのようにして変化させ遊びを工夫しているか、どのように友だちと関わり合っているかを教師は注意深く見て、オノマトペ、メタファなどの言葉をとらえて「その言い方すごくよくわかるね。」「本当に〇〇しているね。」と賞賛し、認め、個人やグループ全体に返していきたい。また、子どもによって表現の違いを見つけたときは、「Aさんは〇〇とっているね。Bさんは△△と言っているね。～だからいっているんだね。」などと、表現の違いを認め、なぜそのような表現をしたのかも聞いていきたい。

最後に活動が終わる予告していた時間になったら、砂場の横に子どもたちを集めて、今日友達と協力できたことや、次に福浜海岸に行く期待などを聞き、来週2年生と一緒に福浜海岸で砂遊びをする期待を持たせて終わりたい。



